

気仙地域における 高田病院の現状と役割



岩手県立高田病院

院長 阿部 啓二

令和6年度 気仙地域県立病院運営協議会（11月5日）

高田病院の概要

- 許可病床数：60床（一般；18床、包括：42床）
- 診療科標榜：8診療科（内科・外科・小児科・整形外科等）
- 外来診療（**内科、小児科、外科、整形外科**、眼科、皮膚科、耳鼻咽喉科、脳神経内科、心療内科、**泌尿器科**）
- 平均在院日数：22.1日
- 平均入院患者数：32人
- 病床利用率：53%
- 地域病院として…

外来診療および外来からの入院加療
急性期治療が行われた患者様の
在宅復帰支援

レスパイト入院

地域への健康啓発活動（健康講演会など）



基本理念

安心して暮らせる地域づくりのために、
信頼される医療を提供する。



病院運営の基本方針

1. **良質な医療を提供し、安心して受診できる病院**を目指します。
2. 医療・保健・福祉との**連携を密**にし、境目のない診療体制を構築し、**在宅医療を支援**します。
3. 根拠に基づいた医療を提供し、**説明と納得**に努め、**心の通う医療**にあたります。
4. **職員教育**に力を入れ、**若手医療者の育成**に寄与し、**働き甲斐のある職場**を目指します。
5. **良質な医療**サービスを支える安定した**経営基盤の確立**に努めます。



高田病院の最近

平成23年3月11日 東日本大震災にて被災

同年 7月 仮設診療所にて診療開始

翌年 2月 仮設病棟完成・入院診療再開（一般41床）

平成30年3月 新築移転（一般60床）・電子カルシシステム稼働

令和元年5月 地域包括ケア病床開始（一般44床/**包括16床**）

令和元年7月 地域包括ケア病床の増床（一般34床/**包括26床**）

令和5年2月 地域包括ケア病床の増床
（一般22床/**包括38床**）

令和6年10月 地域包括ケア病床の増床
（一般18床/**包括42床**）

～より多くの患者様の在宅復帰支援と増収を目指す～

気仙医療圏（2市1町）



基幹病院：県立大船渡病院

地域病院： 県立高田病院

地域診療所：住田地域診療センター

診療人口：約54,670人

(R6.4.1 震災前；約7万人)

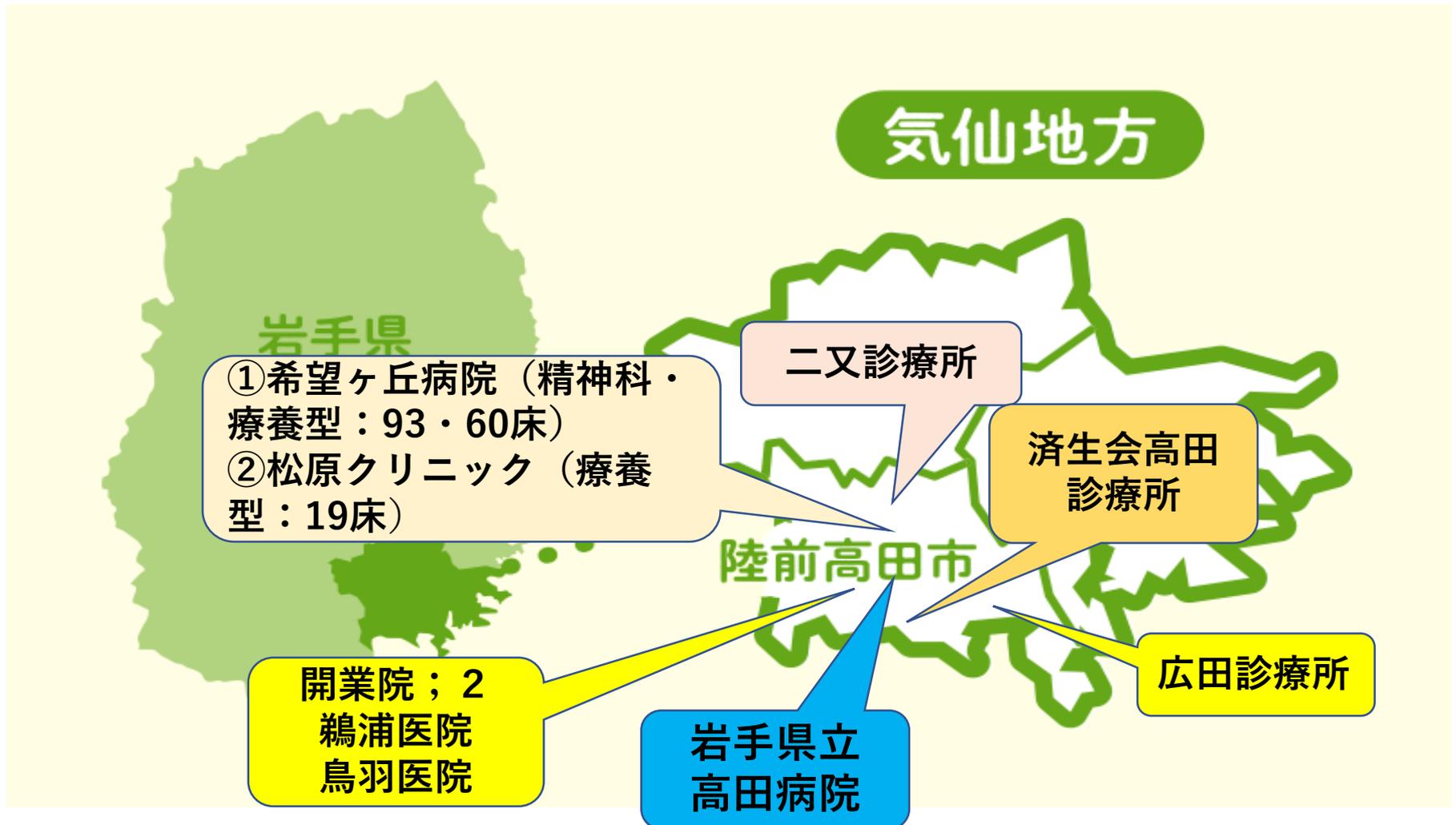
陸前高田市

• 震災前；約24,000人

• 震災後； 17,452人

(R6.4.1)

陸前高田市の医療機関





当院の医師・職員状況

- **常勤医師：6人**
- 看護師：36人（常勤：24人・非常勤：12人）
病棟：19人（13+6） 外来：15人（9+6）
- 看護補助者：8人（今年度より病棟、外来半一元化とした）
- 薬剤師：2人（常勤）
- 臨床検査技師：3人（常勤：来年度は1減？）
- 放射線技師：2人
- リハビリ：3人（理学療法士：3人、言語聴覚士は週2日の応援）
- 事務局：8人（総務課：3人、医事課：2人、事務補助：3人）
- 医療クレーク；4人（内科系；2人・外科系：2人）
- 非常勤作業手・運転技士・電話交換：計5人
- ニチイ
- 調理師（委託業者）
- 清掃（委託業者）

合計；81人

常勤医師



●総合内科：3人

- ①内科長（50）：震災支援から大船渡⇒高田病院。**呼吸器内科**出身
- ②参与（74）：震災支援経由 九州大学**循環器内科**出身
3年契約の4年目（延長） 福岡に家族；来年度も継続予定
- ③内科医長 県立病院研修⇒精神科指定医⇒昨年内科医として赴任

●総合外科（60）：院長（外科、検診＋内科疾患も担当）

●整形外科（63）：副院長（前磐井病院科長。単身赴任） ⇒このような形の医師をさらに確保したい！

●小児科（63）：副院長（震災前～21年目。山口大卒） 定年後も当院勤務希望と表明！

看護部門



- 総数：44人**

（正規；24人、臨時・非常勤：12人、補助者：8人）

- 外来・病棟の一元化は行っていないがFlexibleに対応**

（病棟：27人・外来：17人）

- 病棟は2交代制**（日勤：7～9人＋日勤ロング2名）

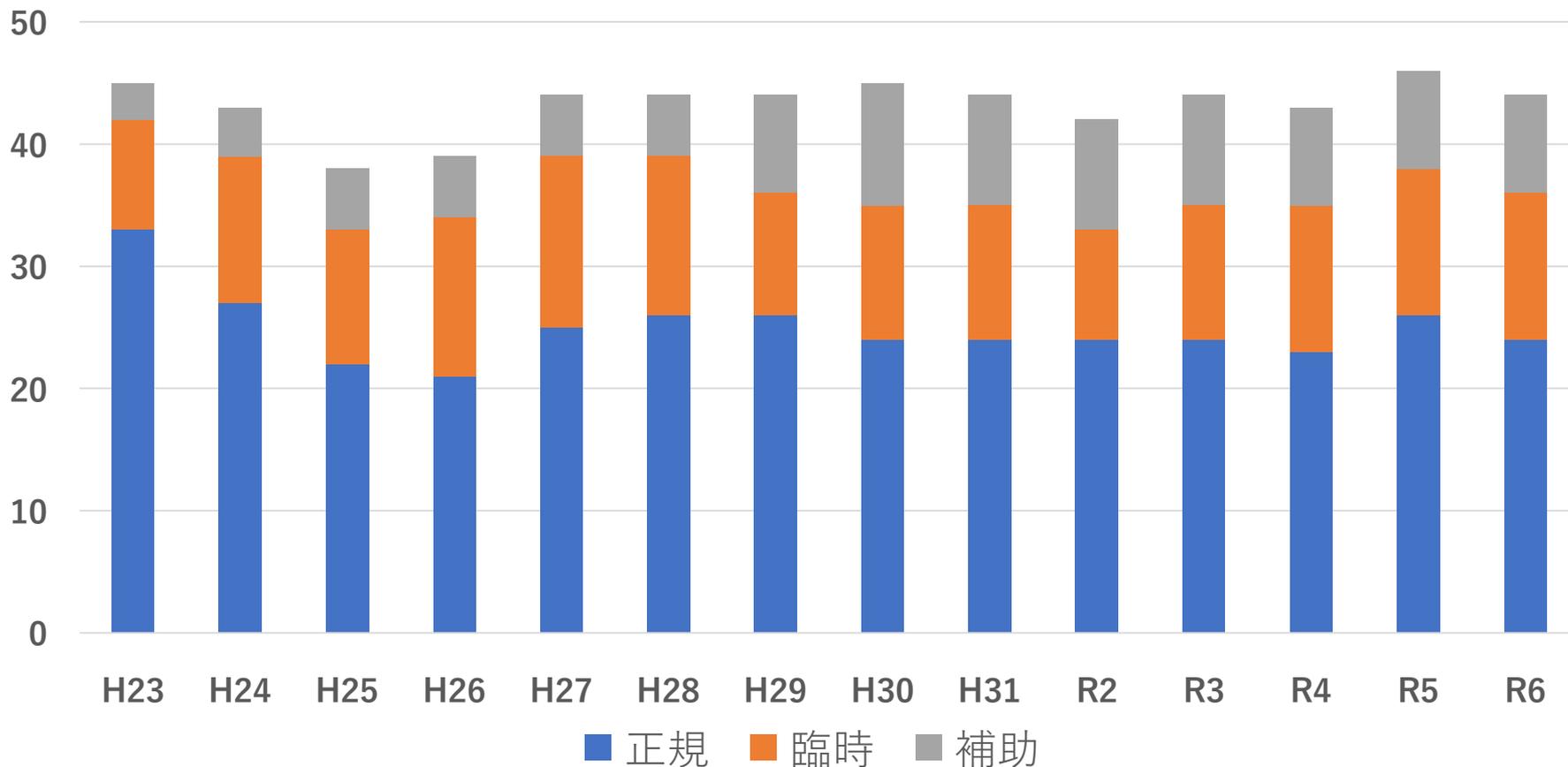
：ロング夜勤2名＋補助者1名

- 外来看護師**：午前・午後外来や発熱外来・急患対応や病棟支援も行っている。病棟/外来の一元化ではないが、少ない人数で協力（やりくり）しつつ運営している

- 特定行為看護師**：2人 R3年度に1名誕生。昨年度は1名が6か月の研修を終了し、本年度受験⇒合格発表待ち



看護体制の年次推移



震災後、仮設診療所⇒仮設病院⇒本設病院と全体の看護数は著変ないが、
正規看護師の減少を非常勤看護師や看護補助者で補っていた。
昨年度は正規看護師を3人増やしていただけだが、本年度は2人減（育休から復帰）

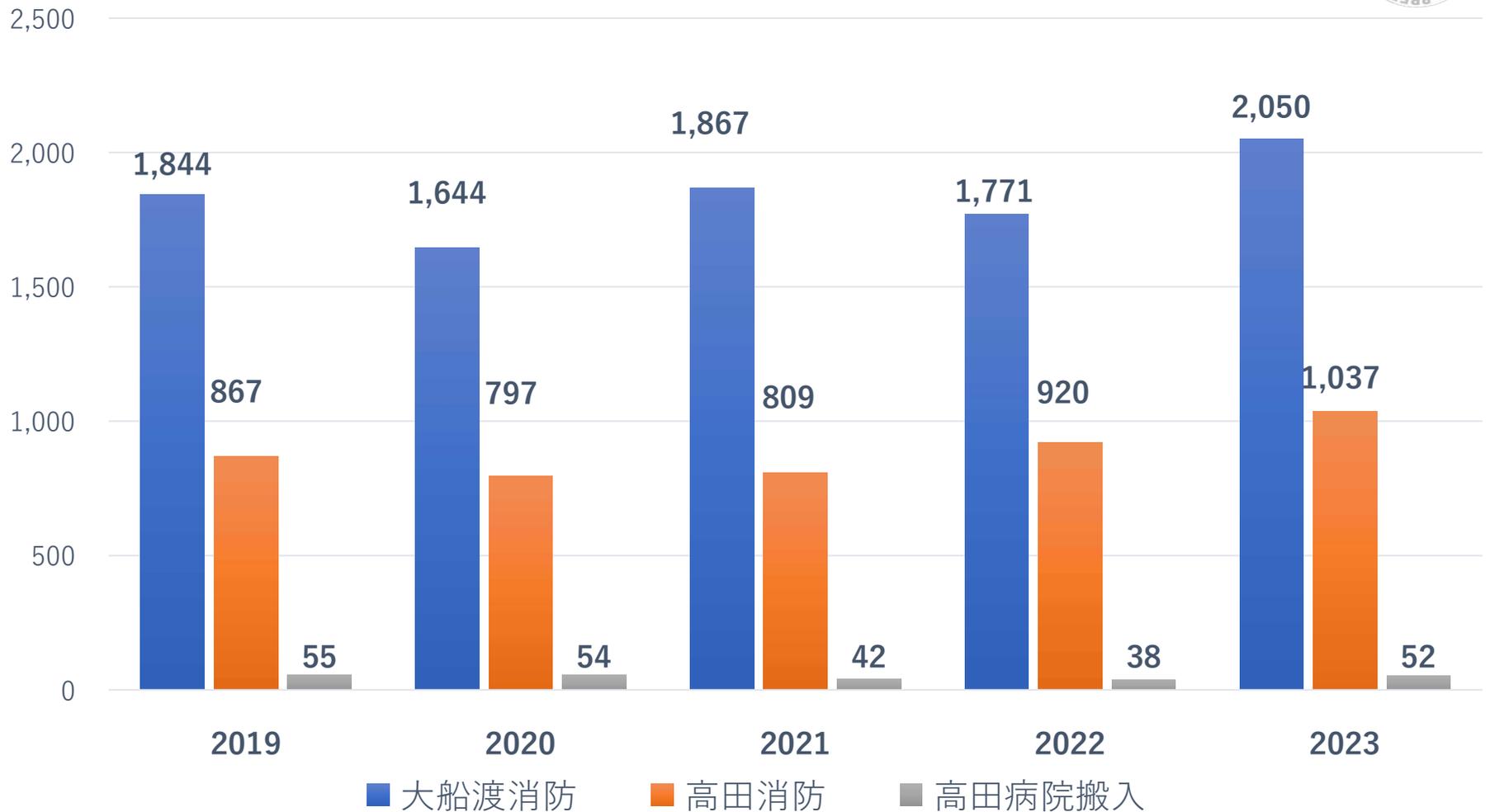
救急に関して

- **新病院開院（2018.3）より救急指定を取り下げ⇒県の医療政策**（当院と山田・大槌・大東の地域病院）：人員的問題
- 今後もこのような流れは全県的加速、医療圏の再編など県立病院院長会でも討議されている
 - ～ 救急を行う病院に集中させ、行わない病院を増やす
- 但し岩手県は広大なため必ずしも容易ではない。気仙地区は大船渡病院の理解と全面的協力、そして地理的要因により実現可能であった

⇒ 当院は**別の形での地域貢献が必要**



気仙地域救急車数



大船渡消防の救急車は2023年は2000台を超え、高田消防も1000台を突破。殆どは大船渡病院へ搬送していただいているが、ほっとつばき患者を中心に高田病院も50台程度は受け入れている。

高田病院への診療応援

支援内容

- | | | | |
|---|------------------|---|---------------|
| ① | 東北大学・総合外科（旧第二外科） | → | 日・当直（毎週2日） |
| ② | 東北大学・耳鼻咽喉科 | → | 外来診療（週2） |
| ③ | 東北大学・呼吸器外科 | → | 当直⇒翌日外来診療 |
| ④ | 岩手医科大学・呼吸器外科 | → | 当直（+日直：連休時） |
| ⑤ | 岩手医科大学・皮膚科 | → | 外来診療、遠隔診療 |
| ⑥ | 岩手医科大学・眼科 | → | 外来診療（週2） |
| ⑦ | 県立大船渡病院・整形外科 | → | 外来診療（月2） |
| ⑧ | 県立大船渡病院・外科 | → | 外来診療（月1） |
| ⑨ | 県立大船渡病院・緩和医療科 | → | 外来診療（月1） |
| ⑩ | 県立中部病院・神経内科 | → | 外来診療（月1） |
| ⑪ | 宮城県登米市立米谷病院・内科 | → | 内視鏡（週1：以前常勤医） |
| ⑫ | 日本心療内科学会・盛岡友愛病院 | → | 外来診療（隔週） |
| ⑬ | まちだ丘の上病院・総合診療科 | → | 外来診療（隔週；2日ずつ） |
| ⑭ | 弘前大学医学部・小児科 | → | 外来診療（月1） |



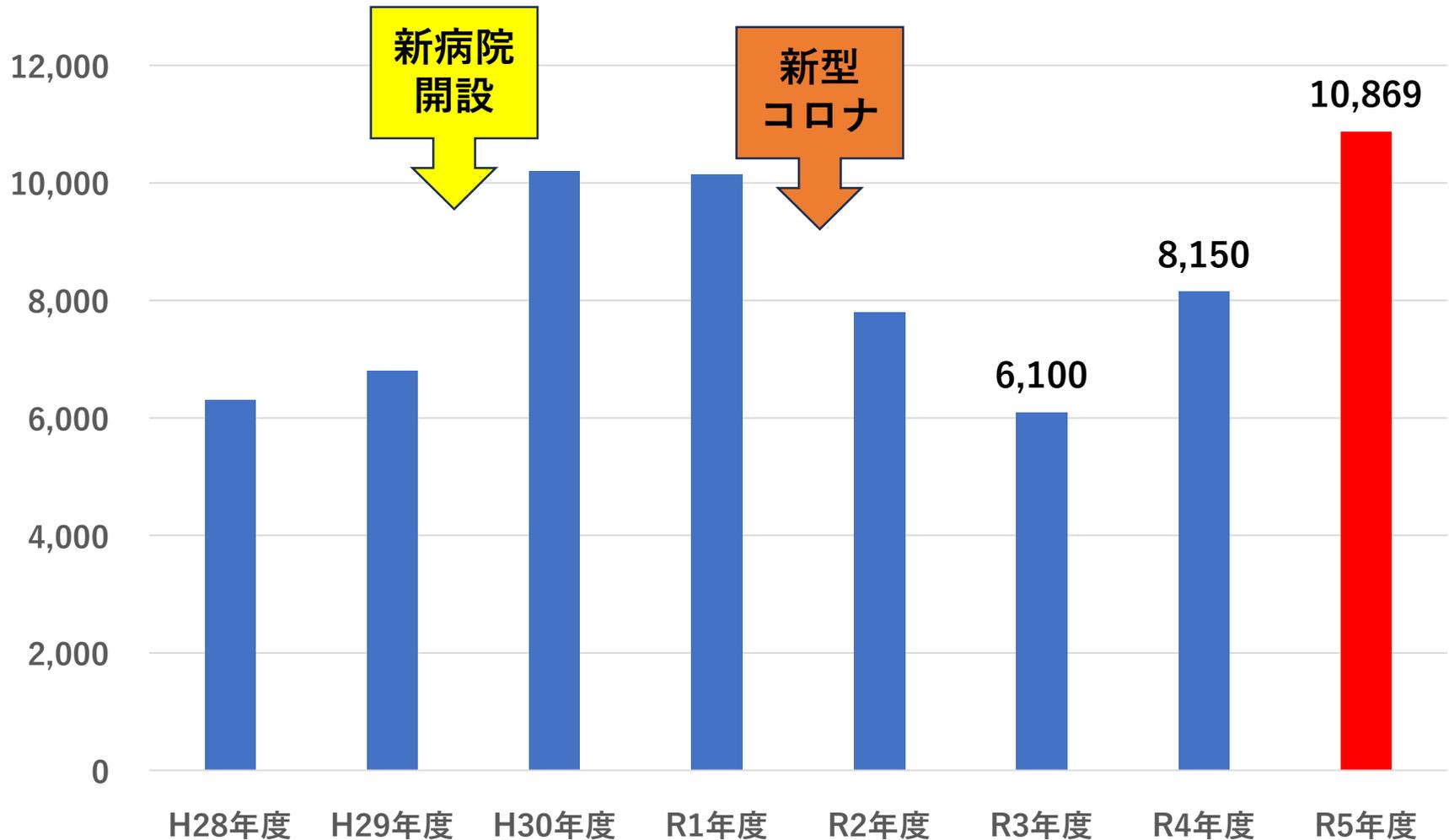
高田病院よりの診療応援

- 県立大船渡病院 → 呼吸器内科外来（月3・木）
- 県立住田診療所 → （循環器）内科外来（月2・火）
- 県立磐井病院 → 整形外科外来（月1・金PM）
- 県立千厩病院 → 整形外科外来（週1・月PM）
- 県立南光病院 → 精神科外来（月2・金）
- 特老・高寿園 → 嘱託医（週1・木）
- 各種学校医

応援をいただくだけではなく、常勤医師の専門性を生かして不足している病院への診療応援も行っているが、施設基準の維持のため縮小せざるを得ない場合もあり

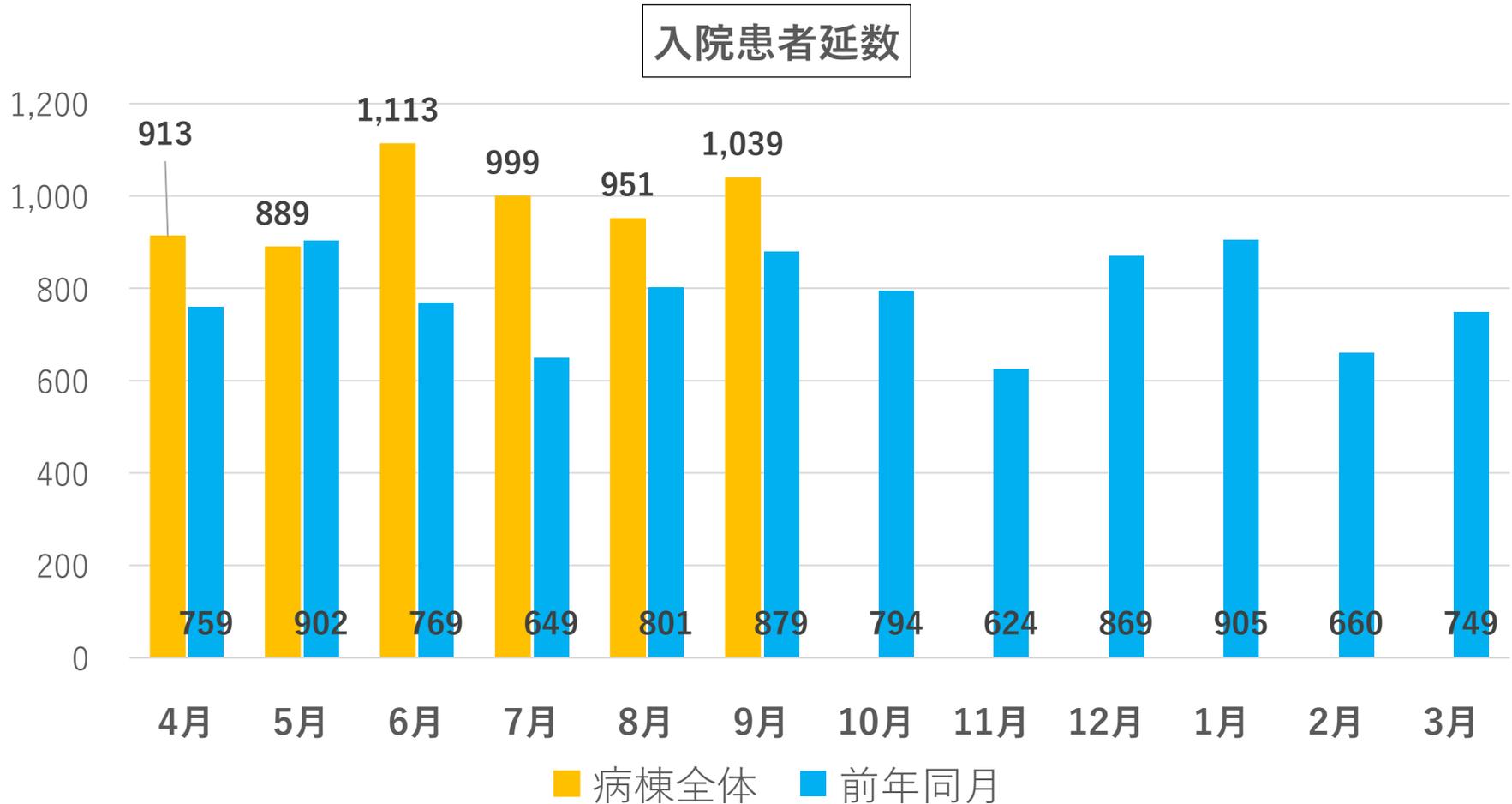
～医療資源の有効活用！ 他地域にも貢献

延べ入院患者数の推移



令和5年度は、新病院開院後（仮設病院を含め）、最多の延べ入院患者数（10,869人）

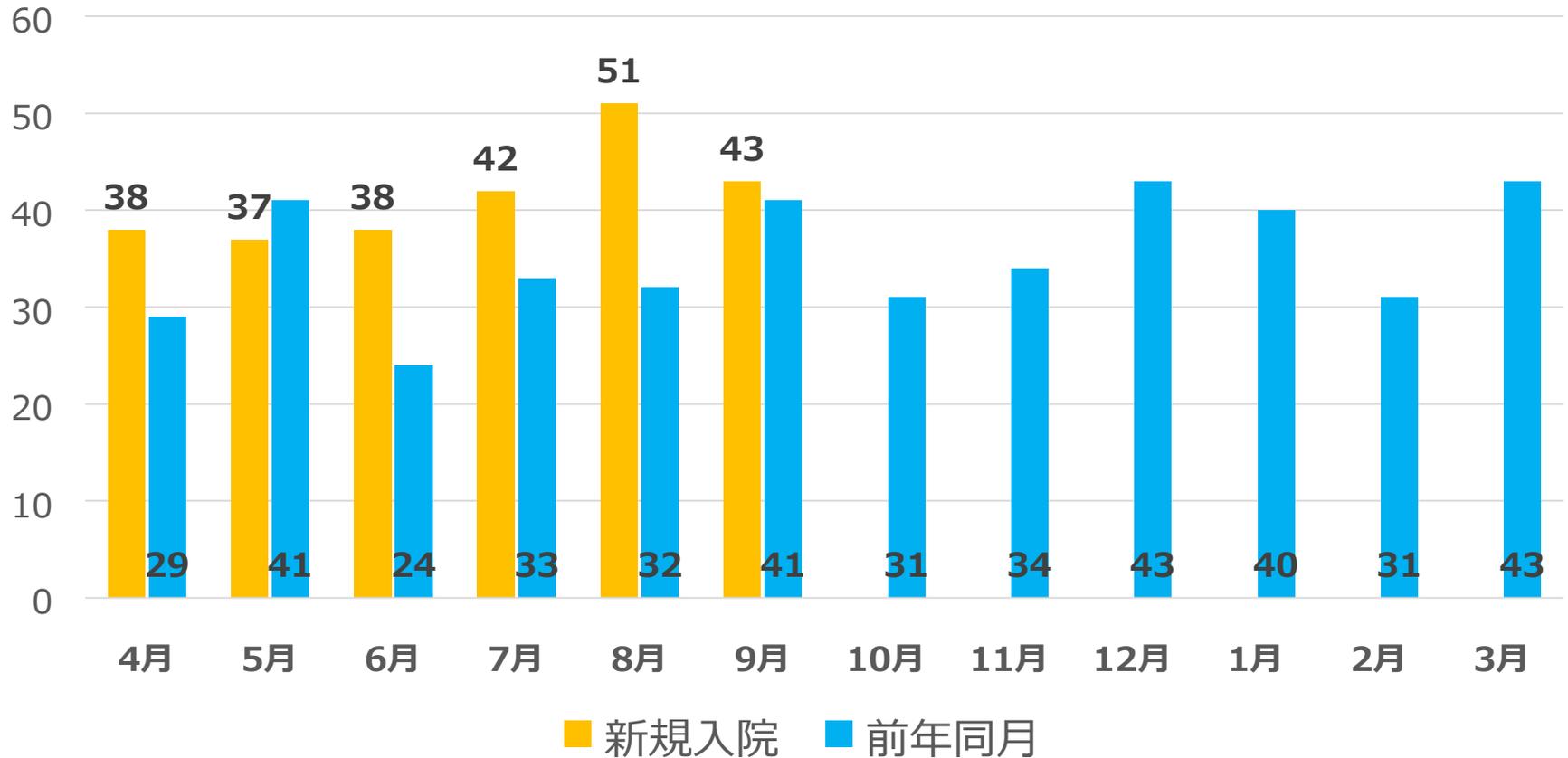
月別入院患者延数（R5年度vsR6上半期）



令和6年度上半期は、過去最高患者数を達成した令和5年度をほとんどの月で今のところ上回っている。

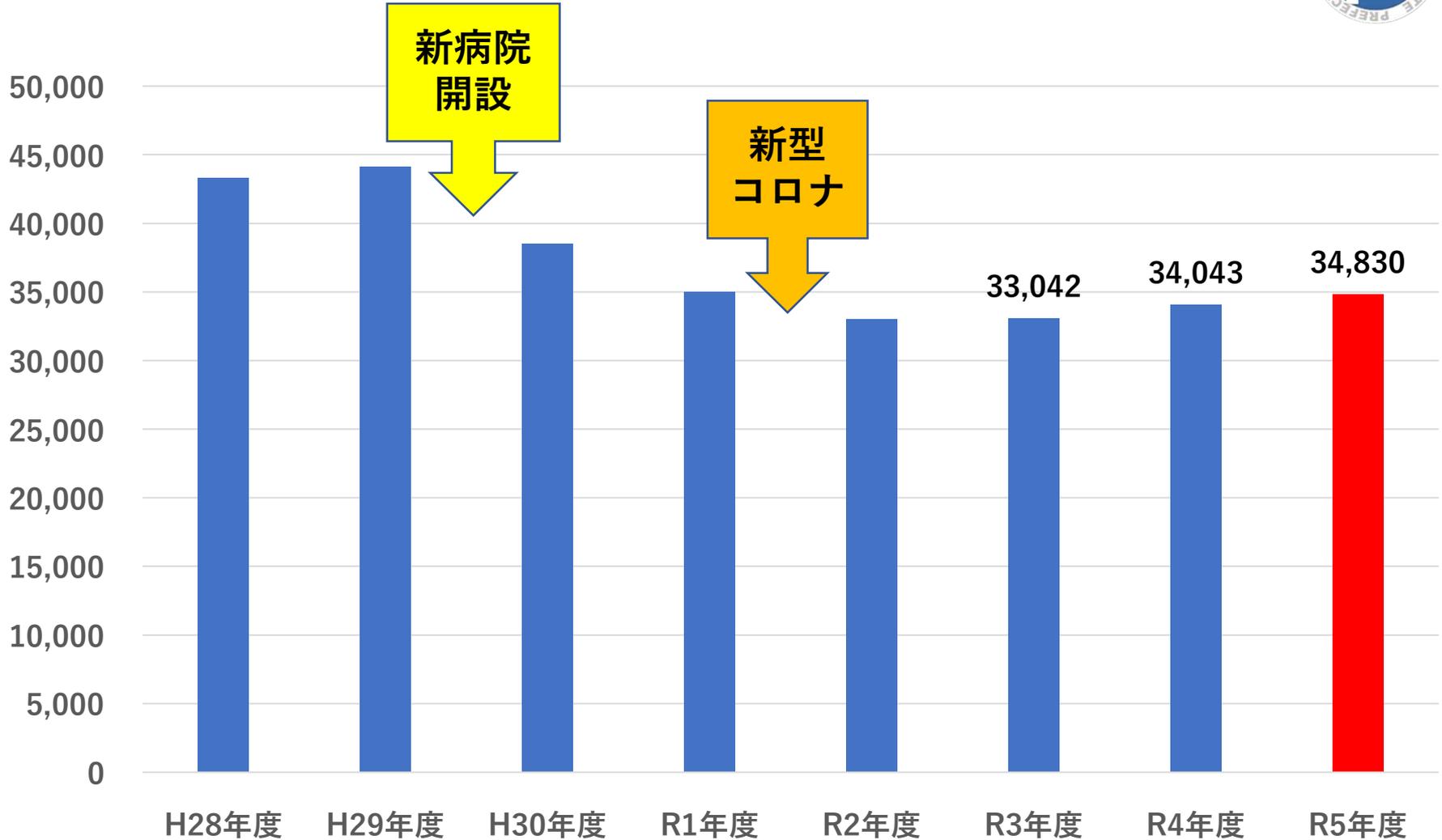
月別新入院患者数（R5年度vsR6上半期）

新入院患者数



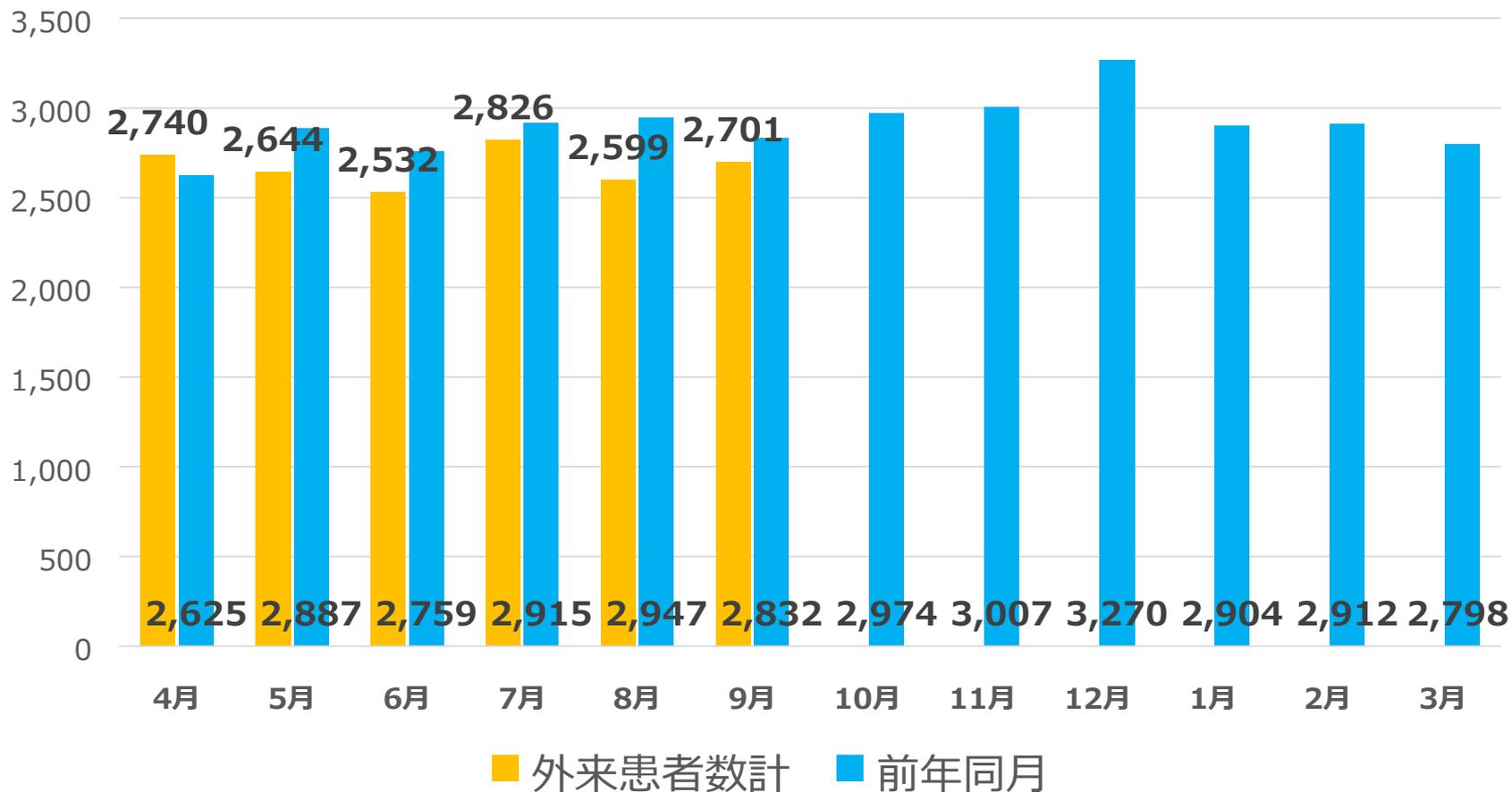
新入院患者数でも令和6年度上半期は、令和5年度をほとんどの月で上回っている。

外来患者数の推移



人口および医師数の減少とともに、外来受診患者数も減少傾向であったが、令和3⇒4⇒5年度は前年に比べ緩やかな増加傾向を示した。

月別外来患者数（R5年度vsR6年度上半期）

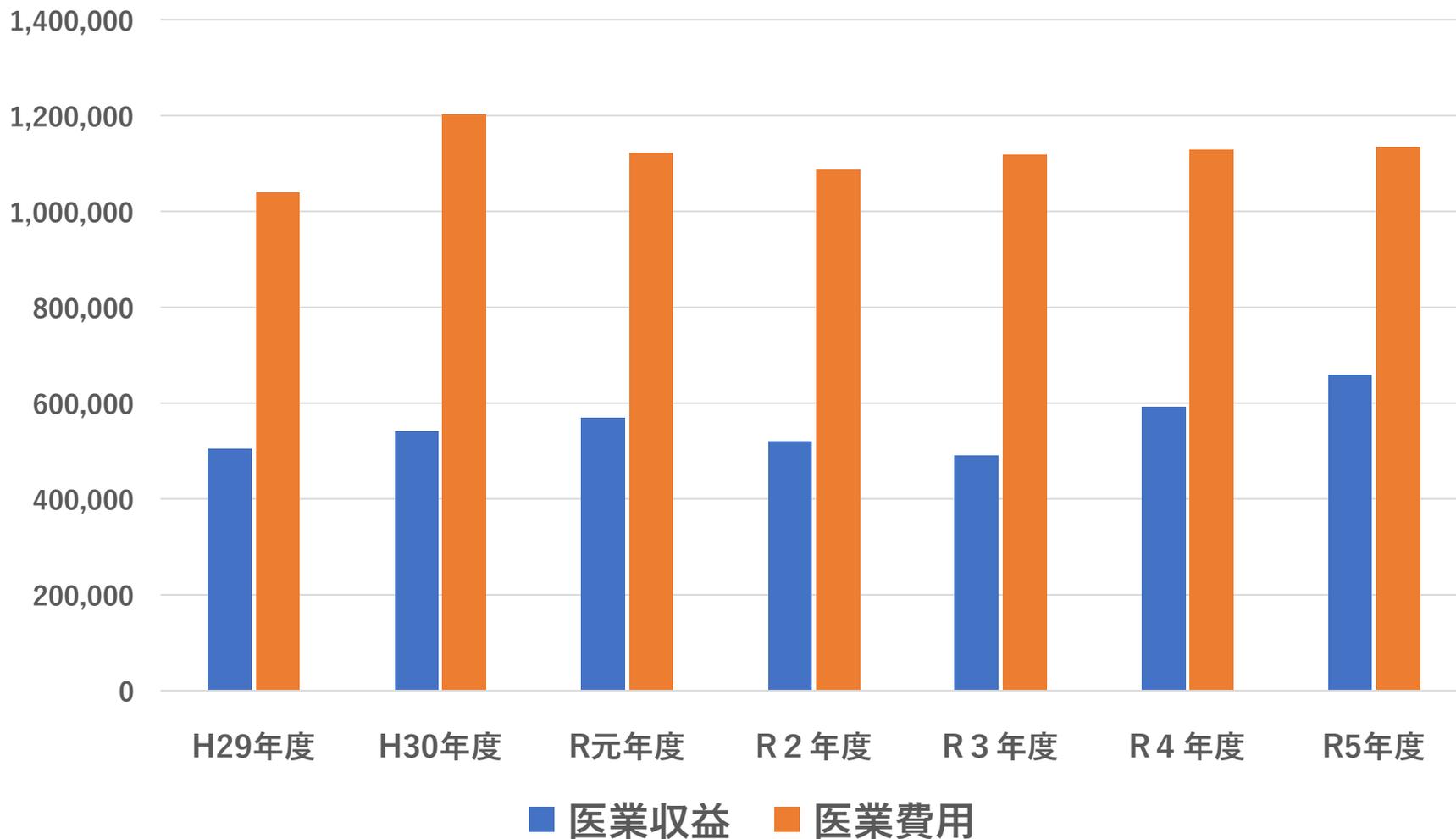


月別外来患者数は、本年度上半期は昨年度を下回っている傾向にある。コロナ患者の（検査含めた）減少が大きな原因と考えられる。

医業収益と医業費用

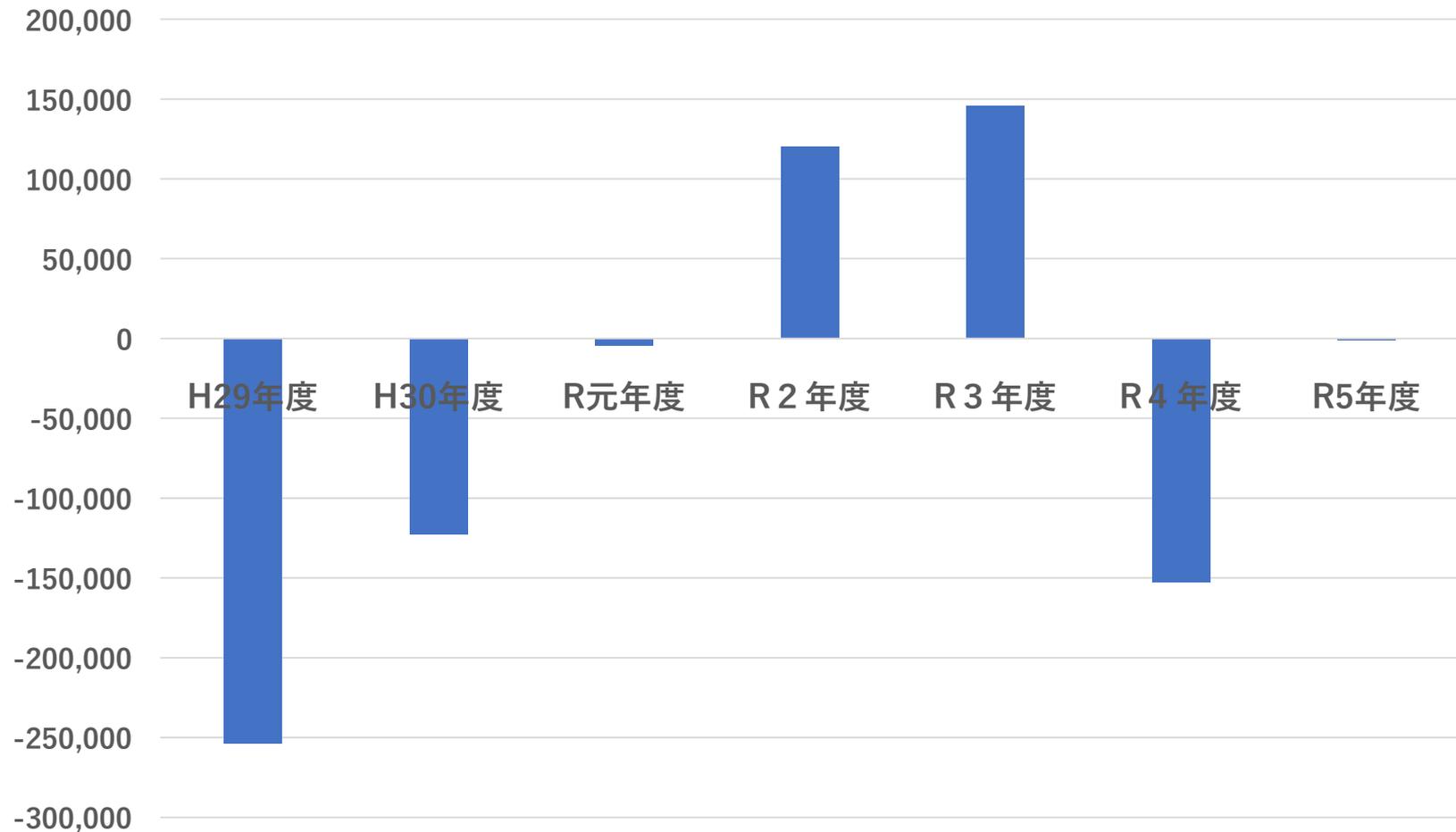


単位：千円



医業収益は費用をかなり下回っているが、入院患者数増加に比例して医業収益は増加傾向であった。

経常損益の推移



新型コロナ患者の積極的受け入れ→補助金も得てR2・3年度は経常損益では黒字化した
が、R4年度は再度赤字転落。R5年度は収益の増加と補助金により、赤字ではある
が1,251,059円まで圧縮できた（本当は黒字??）。



地域社会に寄与する 当院に求められる役割

○機能分担

○連携

①地域包括ケア病床

②ほっとつばきシステム

③レスパイト入院：在宅・介護との連携

機能分担

- 気仙地区での急性期/基幹：県立大船渡病院
- 当院は**1～2次医療**＋急性期病院の**後方支援**
- 陸前高田のみならず**気仙地域全体**の多くの**地域包括ケア**を要する患者さんの受け入れ、**在宅復帰支援**
- 地域の**ほっとつばき患者さん**や
気仙地区全体のレスパイト入院の受け入れ

連携；①地域包括ケア病床

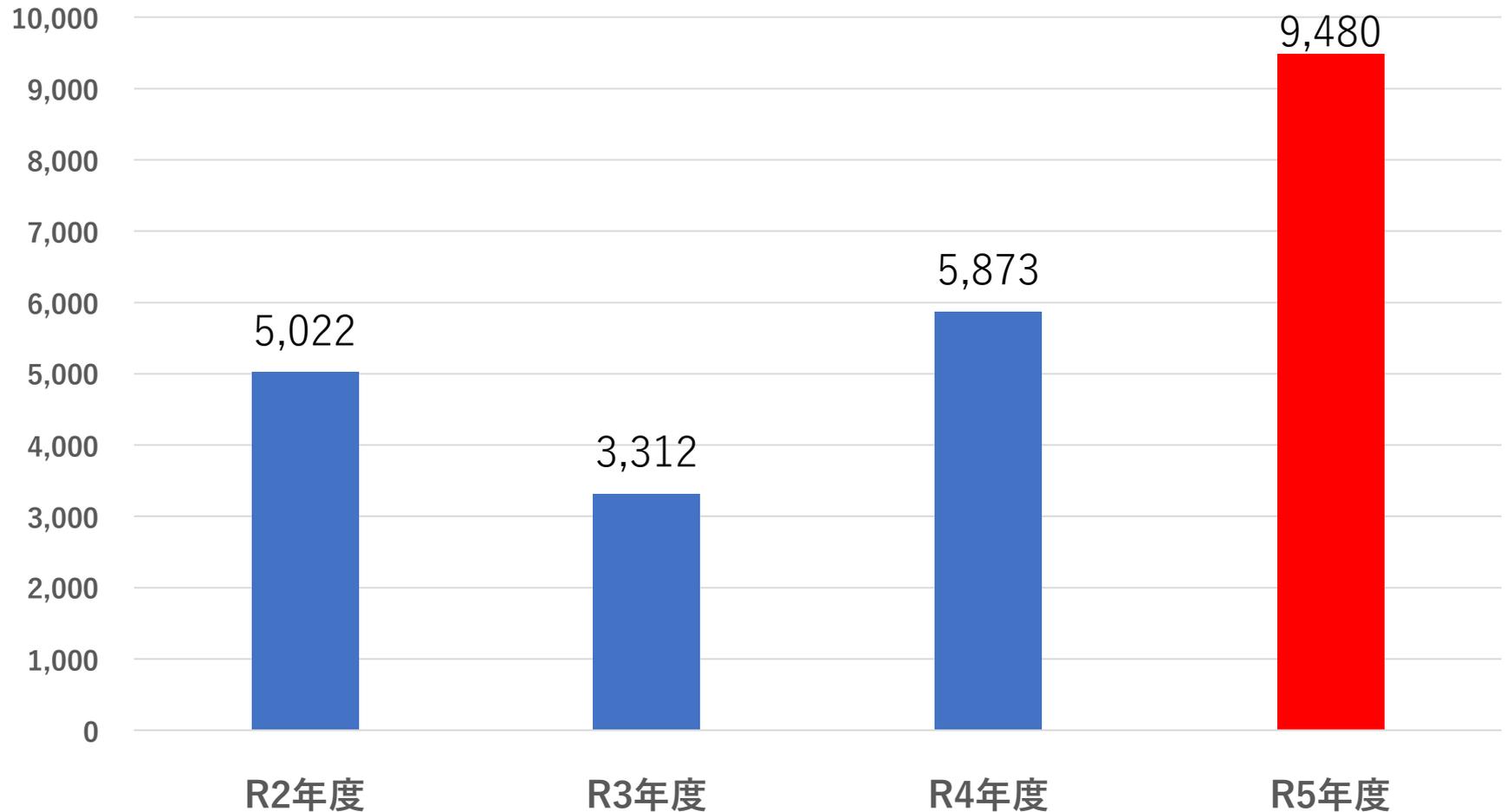
- 令和元年5月 新病院開設年に地域包括ケア病床を開始
(一般；44床/**包括；16床**)
- 令和元年7月 一般；34床/**包括；26床**に増床
- 令和5年2月 一般；22床/**包括；38床**に増床
- 令和6年4月 大船渡病院が地域包括ケア病棟の休止
- 令和6年10月 地域包括ケア病床の増床
(一般18床/**包括42床**)

～より多くの患者様の在宅復帰支援と増収を目指す～





地域包括ケア病床のべ入院数



地域包括ケア病床の増床許可（R5.2月26床⇒38床）により、地域包括ケア病床入院数の増加が入院数全体を押し上げ医業収益の増加に大きく寄与

連携：②ほっとつばきシステム

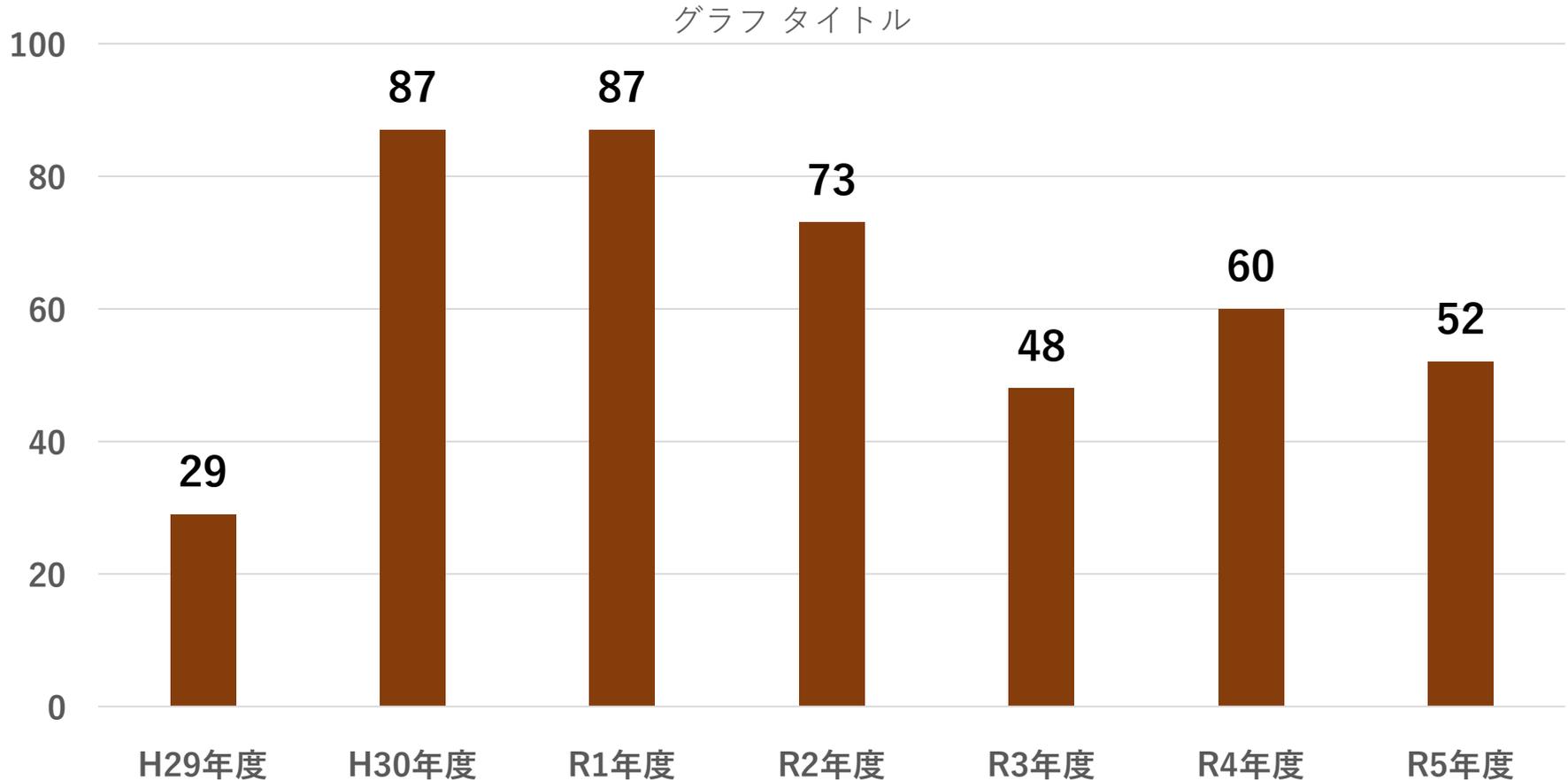
気仙圏域内にて特別養護老人ホーム入所者・介護老人保健施設利用者・在宅療養等を受けている患者の状態が変化した際に、診療時間帯や時間外を問わず、また病棟の空床状況に煩うことなく速やかに入院できるシステム

事前登録制（DNAR必須条件）



- 状態が悪くなって搬送、入院時の血液生化学検査や画像検査なしでもスムーズな入院（24時間、365日）ができる
（急性期病院の負担軽減と地域貢献）
- これによりDNAR確認されている患者がCPA時もスムーズなお看取り

ほっとつばき新規登録者数



ほっとつばき新規登録者数はH30/31年度は順調に急激に増加したが新型コロナウイルスの影響でR 2・R 3年度は減少した。R4年度は再増加したが、その後横ばい。地域医療維持のためにも新規登録者の増加が望ましい。

連携③：レスパイト入院

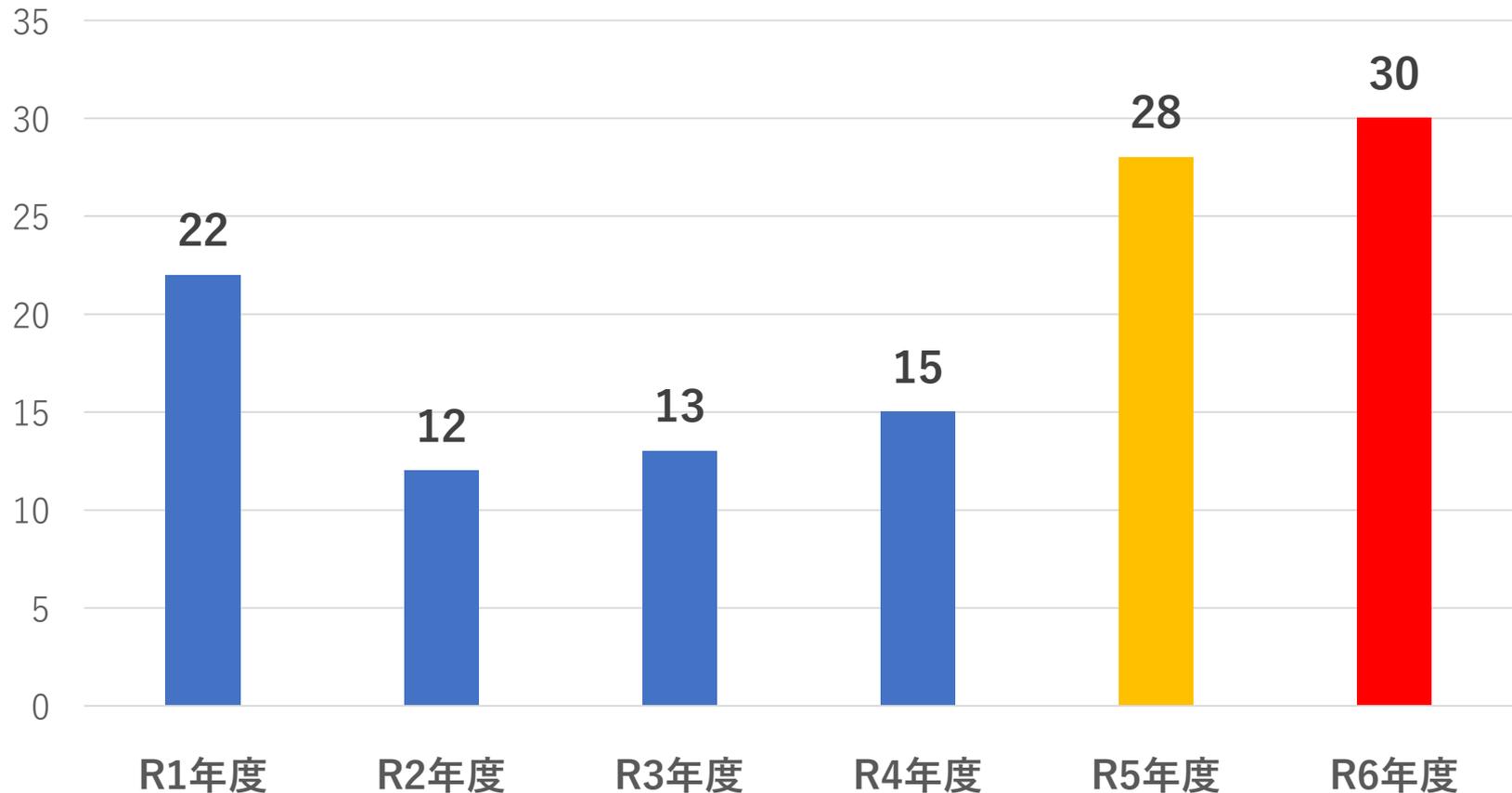
- **レスパイト（小休止）入院**

慢性期、終末期の患者さんを在宅で看ている家族の方が一時的に困難な状態（介護疲れも含め）となった時、患者さんに短期入院して頂く事を**レスパイト入院**とといいます

- 当院は地域病院としてレスパイト入院も受け入れています。実数はまだ少ないが、認知度の上昇とともに、依頼実数も増加傾向にあります
- ショートステイと境界がわかりにくいですが、医療行為が可能である点が大きな違い。Medical Short Stay（MSS）という表現がわかりやすい

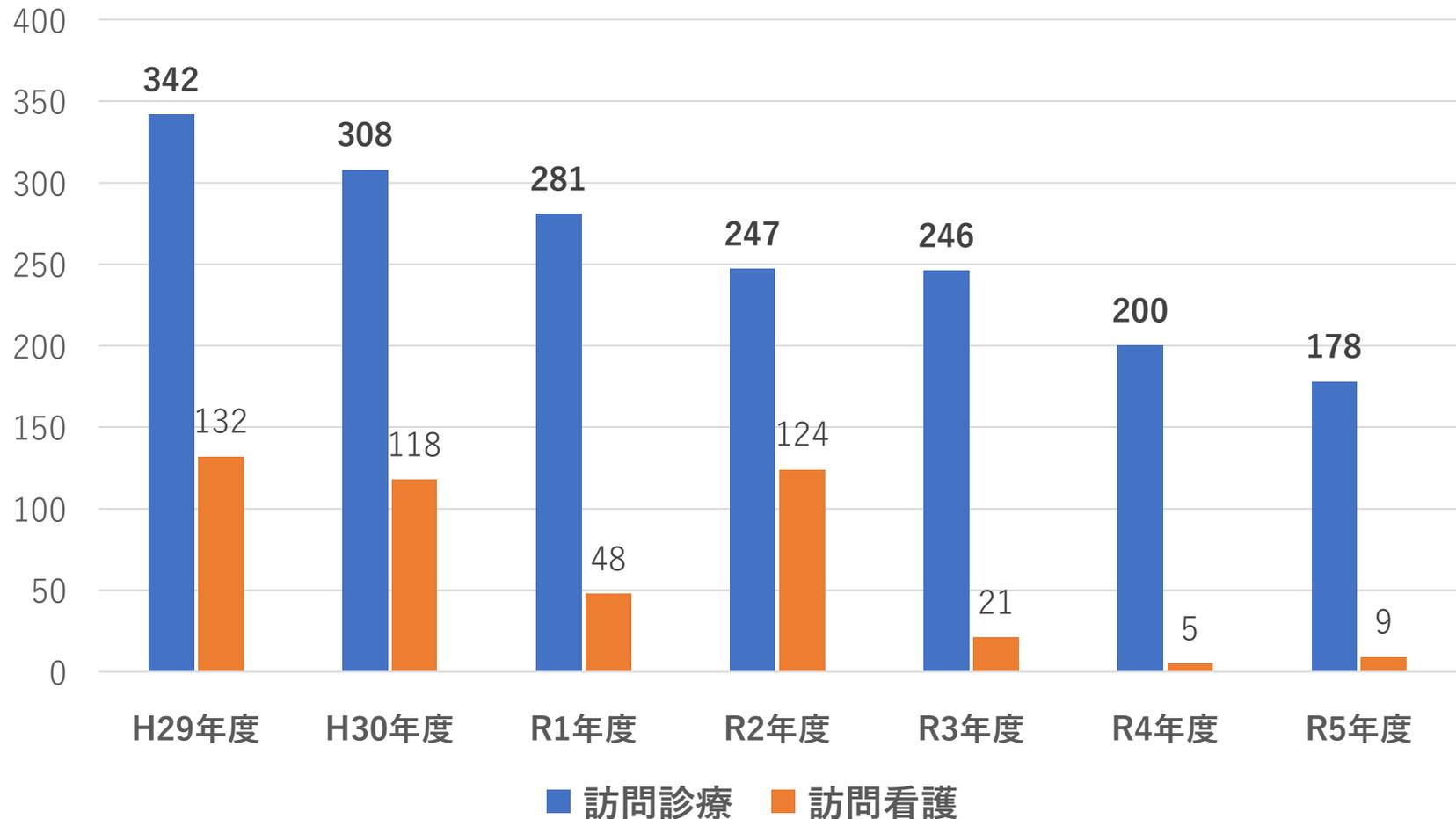


レスパイト入院数



R5年度後半のレスパイト入院増加により、入院数は著明に増加した。
R6年度は上半期（4～9月）のみで昨年度全体を上回っている。

訪問診療と訪問看護



訪問診療は減少傾向ではあるが地域のニーズもあり、比較的維持できている。訪問看護は地域のケアマネへの移行等もあり減少しているが、訪問診療への同伴など役割を果たしてしている。



地域活動

• 地域への健康講演会（陸前高田市内11か所）

- ①気をつけるべき高齢者の腹痛（院長）
- ②心臓のおはなし；血圧と脈拍（鍵山参与）
- ③気軽にできるストレッチ（リハビリ科）など各職種で。出張骨密度測定も。
～コロナ禍で令和2・3年度は中止。R4.7月に再開も軌道に乗らず。
R5年度、コロナ5類移行に市役所主導で。

⇒以前は当院主導も、陸前高田市とジョイントとなり参加者も増加！

• 高校生への保健・健康講話（県立高田高校）

- ①若くても気を付けるべき癌・病気（院長）
- ②喫煙と健康（看護科）
- ③かしこく食べよう♪（管理栄養士）

• ふれあい看護体験（中学生・高田高校・住田高校）

地域医療研修



	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
研修医										
中央病院	4	4	5	4	3	5	3	5	4	4
大船渡病院				2	2	1	2	4	3	
仙台オープン		3	4	1	2	2	2		2	2
東北大学病院	5			1	1		5	1	2	
医学生										
東北医科薬科				2	2		5	8	6	
岩手医科大学							8	12	5	3
医療系学生										1
看護					1	1	1			
薬学/栄養					3					1
医療秘書							1		1	
中学・高校生										
ふれあい看護体験					14			8	8	6
職場体験					1				3	



高田病院のこれまで（まとめ）

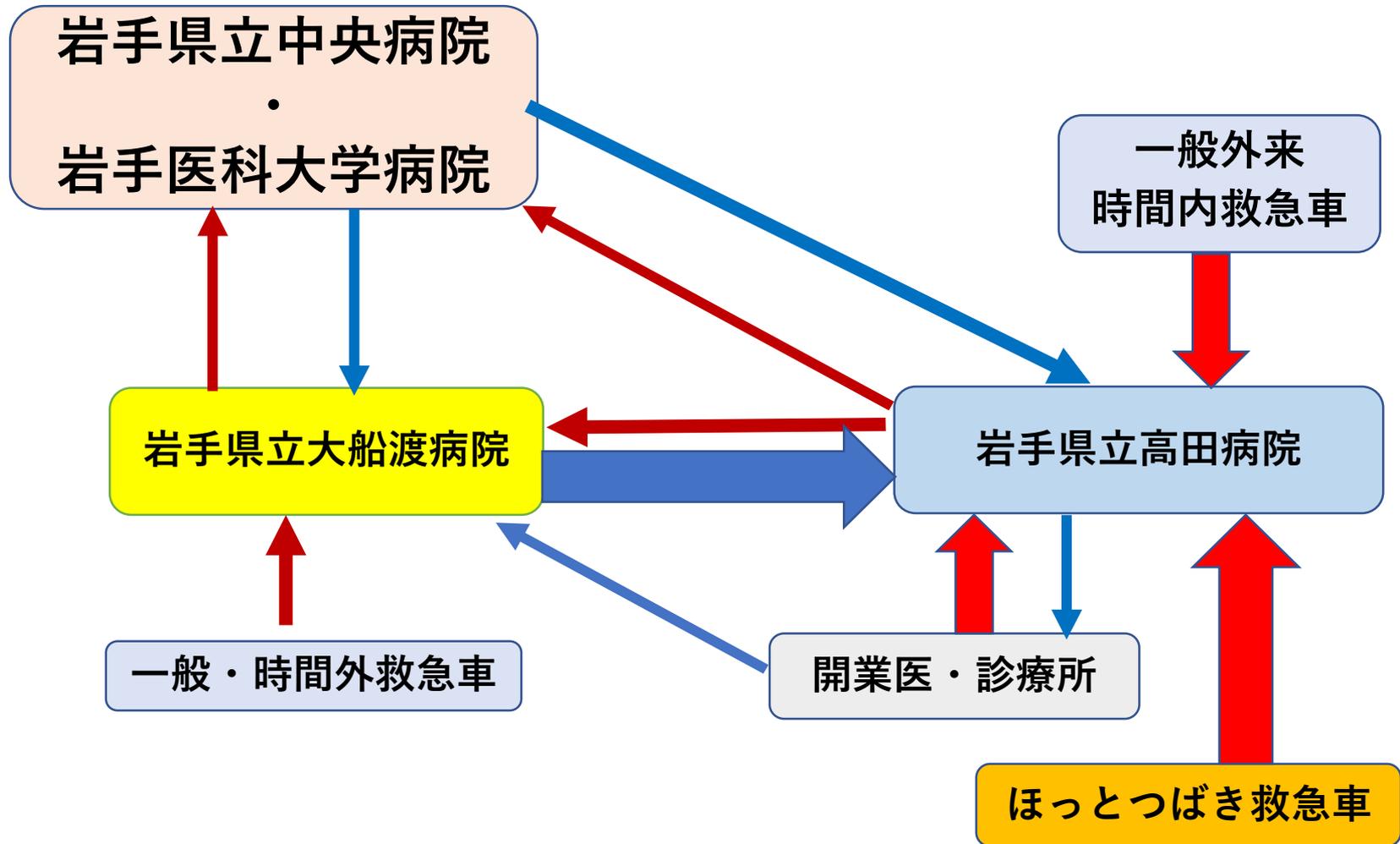
- 急性期病院である県立大船渡病院の協力のもと、震災後より地域医療を支えてきた。
- 外来診療を通しての1次医療と必要患者の入院治療、そして大船渡病院の後方支援（迅速な転院受入れ）など地域病院としての役割
- 地域の新型コロナ患者も中等症IIまでは自院でのハイブリッド入院による加療
- 地域の健康増進に寄与する活動（健康講演会、高齢者施等の支援など）



今後の課題

1. 可及的多くの患者の受け入れと医療の質の担保
2. **入院患者数を増やす**；増床した**地域包括ケア病床**の有効活用と限られた職員数でのやりくり（仕事の効率化：クリニカルパス等）
3. **医業収益の改善**：増床された地域包括ケア病床の有効活用等
4. 働きやすさだけでなく、**働きがい（生きがい）の感じる職場へ**
～地域住民とのつながり、理解と信頼が不可欠
5. **医師（医療人）の安定的確保**；どこの地域病院にも難題！
 - # 1；当院からの退職予防（働き甲斐・長く働いていただく）
 - # 2；震災医師支援や医局派遣は期待できない
 - # 3；基幹病院からのコンバート医師（定年医師再任用含め）
 - # 4；沿線から遠いのが難（単身赴任、子供の教育など）
 - # 5；地域枠の奨学生の派遣依頼（県医療局へ）
 - # 6；基幹病院への一定期間の派遣依頼

陸前高田市の住民の受診動向



自院のみでの独立採算（黒字化）の意欲・努力を目指しつつも、役割分担し
県全体として黒字確保し、地域住民に質の高い満足いただける医療提供が目標！

大船渡病院・住田地域診療 センターとの連携



- **大船渡病院との連携は当院にとって最重要案件（生命線）**
- 本年4月からの大船渡病院の1病棟休止にも早期の当院への転院で対応できた。患者数の増加が予想される冬期間も迅速な転院受入れを行い、気仙地区全体への**地域貢献**と当院/大船渡病院双方の**収支改善**に寄与したい
- **住田町の在宅患者の支援**
 - ① **バックアップベッド**としての役割
 - ② **ほっとつばきシステム登録**していただいての入院・看取り
 - ③ 当院での対応可能な中等症までの入院患者の積極的受け入れ

チーム気仙の中の地域病院として！

- 地域の皆様の信頼を得て！
- 大船渡病院を頼りつつも、信頼も得て！
- 住田地域診療センターとの連携も密にして
- 働きやすく、かつ**働きがいのある高田病院に**



皆で作っていくことが目標
(よろしくお願いします！)

ご清聴ありがとうございました

